試合No.	A4	男子決勝		
会 場	マエダアリーナ	日 時	平成27年11月8日	13:30

チーム A				チーム B
JR東日本秋田ペッカーズ	82 ○	23 1st 12 20 2nd 21 20 3rd 10 19 4th 9 . OT	52 ●	秋田県立能代工業高等学校

No.	選手氏名		PI-in	2P	3P	FT	PTS	Fouls
0	畠山 純也		×	0	0	0	0	3
1	若月 徹		／	3	1	0	9	4
3	斉藤 奨							
7	工藤 紘介		／	0	0	0	0	2
9	石橋 拓	CAP	×	4	0	3	11	3
11	一戸 祐也		×	2	0	0	4	1
12	根岸 城二		×	4	0	3	11	2
13	佐藤 哲朗		／	1	0	0	2	0
18	佐々木 恭							
24	高橋 純		／	5	0	6	16	4
26	平塚 貴将							
33	佐藤 光		×	7	4	0	26	2
55	菅 佑喜		／	0	1	0	3	0
17								
18								
－								
コーチ	柿崎 智弥							
	本 数			26	6	12		
	合計点数			52	18	12	82	21

No.	選手氏名		PI-in	2P	3P	FT	PTS	Fouls
4	盛實 海翔	CAP	×	3	2	0	12	2
5	中村 碧杜		×	1	0	2	4	4
6	斉藤 大輔		×	6	0	3	15	2
7	小室 望海		×	3	2	0	12	1
8	大髙 祐哉		×	0	1	1	4	2
9	高畑 陸		／	1	0	3	5	3
10	金久保 翔							
11	柴田 一真							
12	阿久津 穣							
13	植村 太一							
14	山田 柊人							
15	児玉 海渡							
16	山田 魁都							
17	長濱 宏治郎							
18	熊谷 弥高							
19	石田 淳							
コーチ	栄田 直宏							
	本 数			14	5	9		
	合計点数			28	15	9	52	14

主審（Referee） 片寄 達(宮城)　　第1副審（Umpire1） 秋庭 淳(青森)

第2副審（Umpire2） 成田康平(青森)

テーブルオフィシャルズ　青森北高校

※　×：スターター　／：交代選手　PTS：ﾎﾟｲﾝﾄ　3P：3Pﾎﾟｲﾝﾄｼｭｰﾄ　2P：2Pﾎﾟｲﾝﾄｼｭｰﾄ　FT：ﾌﾘｰｽﾛｰ　Fouls：ﾌｧｳﾙ　＊印はエントリー変更

第1ピリオド、能代工業は3－2ゾーンディフェンス、JR秋田はハーフコートマンツーマンでゲームが始まる。序盤、能代工業は、＃7小室のアウトサイドを中心に攻撃を組み立てる。一方、JR秋田は＃33佐藤の3P、＃12根岸のインサイドを中心に攻める。激しいディフェンスにより、両チームのチームファールが5つとなり、互いにドライブでの攻撃を起点に攻撃を組み立てる。23－12、JR秋田がリードし第1ピリオド終了。

第2ピリオド、能代工業はゾーンプレスを仕掛けるが思うように機能せず、JR秋田の速攻による得点で、開始3分、最大得点差13点となり、能代工業がタイムアウトをとる。タイムアウト後、JR秋田は＃9石橋のインサイド、＃33佐藤の3P、カットインにより連続得点で差を広げる。能代工業は＃4盛實、＃7小室の3Pで応戦しその差を徐々に詰める。残り2分JR秋田はタイムアウトを請求。タイムアウト後、足を使った能代工業のプレスが効き、流れを引き寄せるも、終了間際JR秋田＃1若月の3Pがブザーと同時に決まり、43－33、JR秋田がリードし第2ピリオド終了。

第3ピリオド、JR秋田はハーフコートマンツーマン、能代工業はゾーンプレスでスタート。能代工業は、序盤ターンオーバーやミスが目立ちうまく流れにのれない。JR秋田も能代工業のアグレッシブなディフェンスにより苦しいシュートを打ち、拮抗したゲームが続く。JR秋田＃24高橋のドライブから得点され、開始5分能代工業がタイムアウトを請求。JR秋田はインサイドを中心に攻め、能代工業＃5中村が立て続けにファールし4ファールでベンチに退くと、その後もJR秋田はインサイドにボールを集め＃24高橋の得点によりリードを広げる。63－43、JR秋田リードで第3ピリオド終了。

第4ピリオド、能代工業はアウトサイドを狙うも決まらない。JR秋田はスピードのあるパスワークによりディフェンスを揺さぶり、アウトサイドシュートが次々と決まる。開始4分、25点差となり能代工業がタイムアウトをとる。能代工業はさらにディフェンスのプレッシャーを強くし、＃7小室を中心に反撃するも得点差は縮まらず、能代工業は後半、3回目のタイムアウトを請求。残り2分、JR秋田がタイムアウトを請求し、その後、能代工業はディフェンスをオールコートマンツーマンに切り替え、ドライブなどにより得点するも、残り時間を有効に使ったJR秋田が82－52で優勝を決めた。JR秋田は6年連続7回目の優勝である。

文責 【　齊藤 新　】